



虹のかけはし



〒528-0074

滋賀県甲賀市水口町松尾 1256 番地

TEL : 0748-62-0234 (代) FAX : 0748-63-0588 <http://www.kohka-hp.or.jp/>



着任のご挨拶と肺癌について

呼吸器外科 医長 藤田 琢也

この度、平成 25 年 4 月より当院の呼吸器外科に着任いたしました。

今回は、肺癌について説明します。現在、日本人の死因の第 1 位である悪性新生物、その部位の中で最も多いのが肺癌であり、一年間に約 5~6 万人の方が肺癌で亡くなっています。肺癌の治療法としてはやはり手術が最も根治性があり治療の柱ですが、病状が進行するにつれ手術不能となり、また手術後の再発率も高まります。つまり早期発見することが非常に重要と言えます。しかしながら、肺癌は自覚症状が出にくく症状が発現した時には手術不能であることが多いのです。早期発見のためには健診を受けることが重要であることは間違いありませんが、CT 検査によって偶然、レントゲンではわからないような小さな薄い影の早期肺癌が見つかることがあり、その場合は手術で根治できることが多いのです。

従来、肺癌に対しては、大きく胸を開けて手術をしていました。筋肉や神経を傷つけたり、肋骨が折れたり、折れなくとも肋間を無理やり広げることによって術後の痛みの大きな原因となっていました。そのため近年では、2cm 程度の創（胸壁を切開します）から胸の中（胸腔）に内視鏡を挿入し、ビデオモニターを観ながら（テレビの画面に胸の中が映し出されます）3-4 箇所（2~5cm）を必要に応じ追加し行う胸腔鏡下手術が広まっております。肋間を無理やり広げることをしないため、術後の創部痛が開胸術に比べはるかに軽減されます。当院でも胸腔鏡下手術を基本的にを行い、より、痛みと侵襲の少ない手術を行っていきます。手術以外でも、肺癌に対する薬物治療と放射線治療、更には緩和医療と、すべての治療が重要であります。当院ではすべて施行可能であり、最善と考える肺癌診療を提供してまいります。





これからの救急医療室

救急医療室室長 岡林旅人

平成25年4月1日新病院開院と同じく、救急医療室も新しくなり、これまでの狭い救急室ではなく、初療室4床¹⁾、観察ベッド4床、点滴ベッド6床²⁾、診察室4室³⁾とスペースも広く、救急室から直接レントゲン撮影、CT撮影⁴⁾が可能な、また、ICU、手術室へエレベーター⁵⁾で直行できる機能的な救急外来に変身いたしました。救急スタッフに関して、ICUと救急が一つの看護セクションとなり、救急が忙しくICUに余裕があるときは、ICUスタッフが救急をサポートすることができるようになっています。4月1日の開院以来、救急外来では、救急車受け入れ1日平均約10台、多くの地域の先生方からご紹介された方をはじめ、1日平均約7人が入院となっています。このように救急スペースに余裕ができ、多くの救急を受け入れることが可能になりました。このことは、もちろん担当の看護スタッフの努力の他、放射線科、検査科、病棟、地域医療連携などの救急外来以外の他の部署の協力連携なくしてはできませんし、すべての診療科の医師の協力があって初めて、維持できることです。

当院は主に二次医療を担当している病院ですが、地域の中では一次医療から救命治療、終末期の医療、また検案までに携わっています。現在救急専従の医師は当院には不在ですが、プライマリーから専門治療まで、各科医師の垣根を越えた協力で救急に対応している現状です。理想的には病院の医師全体が、初期医療、プライマリーの医療の部分を担当し、その後専門治療が必要な方は専門医に引き継ぎ、救急専門医は重傷重篤な救急を担当し、集中治療まで行う。このような体制が構築できることが一つの理想であるとは考えます。理想的な救急体制の構築も目標の一つですが、現在のように医師は各科が協力しつつ、病院全体が一致団結、救急を受け入れていく体制を維持し、さらにしっかりとしたものにして行きたいと考えています。

地域の先生方や地域の皆様に支えられて公立甲賀病院はありますし、またその公立甲賀病院が今まで以上に、地域医療に貢献できるように、一般的で標準的な医療から、さらに進んだ医療まで提供できることを目標に、救急医療室も努力を重ねていきます。これからもますます皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

1)



2)



3)



4)



5)



手術室について

手術室 看護師長 森田 保



みなさん、手術室と聞けば何を想像しますか？おそらく「怖い・冷たい・痛い」などの否定的な言葉が出てくることが多いと思われます。私達は手術の時だけ患者さんに接しているわけではなく、手術前から患者さんの不安の軽減を考え、手術担当者との面識を持つことで、少しでも緊張をほぐせるように術前訪問を行なっています。また、新しくなった手術室は空気調整も充実し、部屋ごとに患者さんに快適な手術環境を提供することを心掛けています。

これまでの医療界では、患者さんに使用する器材類の滅菌（滅菌とは細菌やウイルス等を死滅させる手段）には毒性の強いガスを使用することが多かったのですが、新病院の手術室では滅菌後にガスを無毒化することができる装置を備えたホルマリン滅菌器を導入し、より患者さんに安全な医療を提供できるよう業務に臨んでいます。作業スタッフに対しても被曝がなく、安心して業務に取り組むことができます。また、ホルマリン滅菌器の排出ガスは大気中の環境に対しても無害なので、地域住民の方々にも安心していただきたいと思います。手術準備に関しても使い捨て製品を少なくするために、再利用可能な製品を導入し、ごみ問題・環境問題に配慮した取り組みも行なっています。

新病院の手術室では、今後の手術件数増加にも対応できるように旧病院より部屋を1室増やし、1室ごとの面積も格段に大きくし、余裕を持って手術業務が行えるよう設計しています。術野の照明（無影燈）も現在の生活の主流となりつつあるLEDを導入し、長寿命・省電力を考えました。また、発熱が少なく術者に与えるストレスも軽減させ、手術がしやすい明るく快適な手術環境を提供しています。

旧病院では年間約2500件の手術をこなして来ましたが、今後は、年間3000件を目標とした業務体系を徐々に取り組んでいきたいと考えています。

地域住民の皆さんから愛される新生公立甲賀病院をめざすために、手術室では安全で温かみのある手術運営を心がけて行きたいと思っています。



第38回 健康講座が、4月27日（土）開催されました

in 公立甲賀病院 講堂



今回の講座では「消化器がんについて学ぼう！」をテーマとし、当院の池田房夫医師より講演をさせていただきました。

当日は、133名のご参加をいただきました。多数のご参加ありがとうございました。

次回の参加もお待ちしています！！

次回の講座案内



① がん患者サロン開設2周年記念講演会

日時：平成25年6月5日（水）
時間：13時30分～14時20分
場所：公立甲賀病院 診療棟2階講堂
内容：「知っとこ！～胃がん・大腸がん～」
講師：田崎 和仁 医師（消化器内科）

②健康講座

日時：平成25年7月27日（土）
時間：14時～15時30分
場所：サンライフ甲西
内容：「増え続ける糖尿病
～正しく学んで、しっかり防ごう！治そう！～」
講師：大村 寧 医師（糖尿病・内分泌内科）

編集後記

吹き渡る風が青葉の香りを運んで来る季節となりましたね。

そんな、香りを感じていると、空を見上げたくなり、青空を見て自然と笑顔になる。

川のせせらぎに聞きほれて、耳が洗われたような気持ちになる。自然というものは、人の心を癒し、エネルギーをくれるものですね。

4月から新しい環境に慣れず仕事に一生懸命で気持ちにゆとりのない皆さん、自然を感じることで心を開放してみてもいいかな？（F）

